安全安心　景観　官民協働

片山津（かたやまづ）地区

（石川県加賀市）

- ○ 計　画　期　間　平成 19 年度～平成 23 年度
- ○ 面　　積　380ｈａ
- ○ 交付対象事業費　1,649 百万円
- ○ 市人口 63,830 人

ポイント

柴山潟と一体となった、新しい片山津温泉街の形成

地区概要

温泉街中心部の回遊拠点・ネットワークを強化・充実し、安全で快適な道路空間の形成と回遊需要の喚起による賑わいの再生を図る。

目　　標　温泉街中心部の回遊拠点・ネットワークを強化・充実し、安全で快適な道路空間の形成と回遊需要の喚起による賑わいの再生を図るとともに、柴山潟湖畔の立地環境を活かした事業展開（水辺のオープンスペース整備・周遊船運行）により、湖畔の温泉街としての魅力増強を図る。

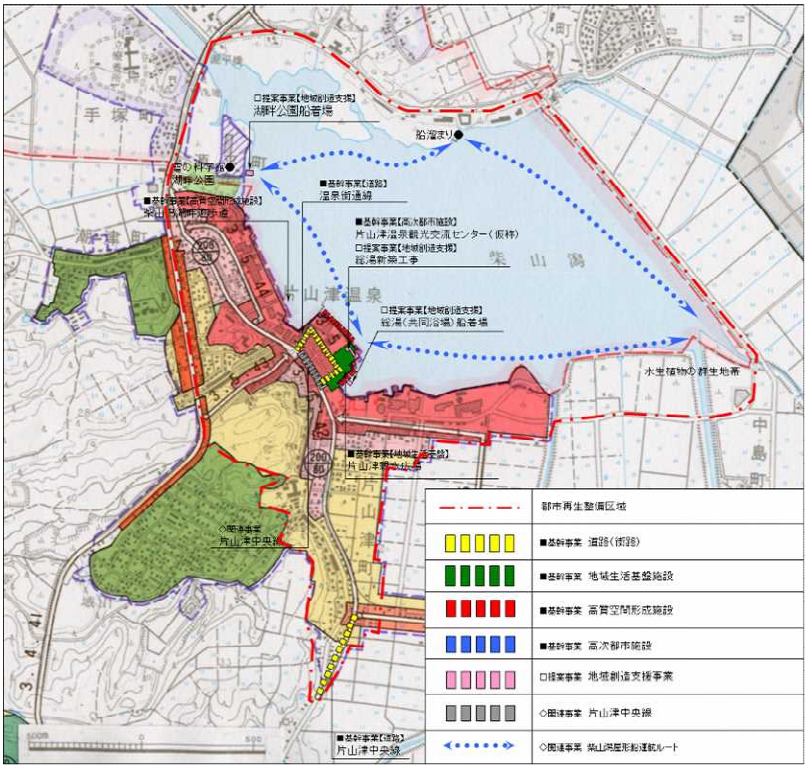
指　　標　新たな回遊拠点の整備や町並み（道路・建物）の修景、柴山潟親水空間の創出により、誘客力が強化され、日帰り及び宿泊観光客数が増加し、歴史的建造物であり休憩場所としても利用されている片山津芸子検番の利用者数が増加する。

日帰り観光客数	31,000 人	（H17）	→	35,000 人	（H23）
宿泊観光客数	360,000 人	（H17）	→	361,000 人	（H23）
まち中滞留拠点の利用者数	2,400 人	（H17）	→	3,000 人	（H23）

事業内容

基幹事業（　1,049 百万円）　→　温泉街通線（W=12～15m、L=450m）、片山津中央線（W=16m、L=400m）
柴山潟親水広場（A=11,185 ㎡）
柴山潟遊歩道（W=3m、L=500m）片山津観光交流ｾﾝﾀｰ（271 ㎡）

提案事業（　600 百万円）　→　総湯（共同浴場）（A=852 ㎡）船着場 2 箇所（W=3m、L=10m）



地区の現況と課題

片山津地区は、市民の憩いの場として親しまれている柴山潟湖畔に広がり、全国有数の温泉街と一体となった市街地として発展してきた。市街地は、柴山潟湖畔から大型観光旅館の建ち並ぶ温泉街、そして商店街、住宅地の順に形成されており、丘陵地には住宅団地が広がっている。

観光地として発展してきた本地区であるが、消費者ニーズや旅行形態の変化、長引く景気低迷などの中において観光客数は、昭和 55 年の 1,500 千人をピークに平成 17 年には 360 千人（▲1,140 千人、▲76%）にまで減少し、現在営業している旅館（20 館）数も全盛期の半分となっている。また、地区人口も、昭和 55 年に 7,176 人であったものが、平成 17 年には 6,153 人（▲1,023 人、▲14.3%）に減少している。

まちづくり総合支援事業（H14～H18）により、地区中心部の公園整備を拠点として、散策路整備や、街路整備（県施工関連事業）により地区回遊性の向上が図られているが、柴山潟沿いに残る廃業旅館群が、地区の“宝”とされている柴山潟への眺望を遮り、景観を損なう地区低迷の象徴となっており、抜本的な打開策が求められている。

なお、加賀市は、平成 17 年 10 月 1 日の旧加賀市と旧山中町の合併によって、片山津・山代・山中の３温泉地を有し、年間 200 万人以上の観光客が訪れる国内有数の温泉郷となった。

片山津温泉総湯

観光交流施設「まちカフェ」

計画策定プロセス

地域の継続的な取り組み

地域の住民・各種団体が主体となって展開される「水辺の温泉街再生」への取り組み。

計画区域における施設整備の検討（片山津温泉総湯再生検討委員会）と同時期に、学識経験者や、まちづくり団体（ＮＰＯ等）、観光業関係団体（観光協会）および行政から構成される片山津温泉再生会議（会長：金子達郎/NPO 法人 LASCO 片山津副理事）が設立（H17.5.9）され、計画区域におけるソフト面での再生策が検討された。

同会議は、住民主体・住民参加による個性豊かな温泉地として着実な活性化を図る「片山津温泉再生計画」を策定することを目的としており、平成 17 年度に計３回の会議開催を行なったほか、ワークショップ形式の勉強会である未来塾（塾長：岡崎昌幸/法政大学教授）を計 18 回開催し、地元主体の活動を展開してきた。

平成 18 年度からは、「片山津温泉再生計画」に基づく具体的な事業が展開されており、地域の住民・各種団体が主体となった温泉街再生への取り組みが進められている。

（都）温泉街通線

柴山潟遊歩道